

24 『能海寛遺稿』を読む

【全6回】／開催方法：現地

おかざきひでき
岡崎秀紀

能海寛研究会会長
学芸員



受講料 一般料金：¥10,600 早割価格：¥9,600 (納入期限：10月17日)

【日程】【全6回】 1回／月 第4土曜日
(10/22、11/26、12/24、2023/1/28、2/25、3/25)

【時間】13：30～15：00

■受講に必要なもの
資料配布

2022年度は、能海の中國大陸での旅、活動の記録を探ります。明治31年に日本を出発し、32年第1次ルート（上海・三峡・成都・打箭爐・巴塘）、33年第2次ルート（西安・西寧・丹噶爾・哈拉庫図尔）、34年第3次ルート（大理・昆明・麗江・阿墩子?）と、2年半の間に11省府、合計1万2千kmの距離を歩き、記録を取りながら、チベット入りに挑戦しました。その際、中国各地から手紙を発信し、それが能海の死後、寺本婉雅（大谷大学教授、第1次ルート同行者）の手によって、『能海寛遺稿』（大正6年）として刊行されました。講座では、『遺稿』の原文、および講師による実地踏査の報告記（第1次・2次ルート）を読んで、能海の旅に迫り、中国・チベットの関係史や時代背景などを考察したいと考えます。

第1回 『能海寛遺稿』について

『遺稿』より解説。能海の第1次ルートの概要解説

第2回 実地踏査の報告①

「能海寛の入蔵ルート探訪記①から⑦」（『中国新聞』1997年9月9日付から）

第3回 能海の第2次ルート『遺稿』より第2次ルートの概要解説

「能海寛 第2次ルート探訪記①から⑧」（『中国新聞』2000年10月11日付から）

第4回 実地踏査の報告②

「島根と寧夏の原点 —能海寛の寧夏地区シルクロードの記録—」、『石峰』第1号（1995.7）

『島根の高校生 黄土地帯を越えて六盤山へ』、国際交流登山報告書（2001）

「青海に入った初めての日本人、能海寛の第2次ルートの研究」、『石峰』第22号（2017.3）

第5回 能海の第3次ルート『遺稿』より第3次ルートの概要解説

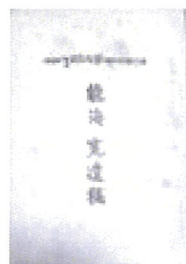
「能海の最期を語った、フランス人麝香商人G.ペロンヌを追って」『石峰』第19号（2014.3）

第6回 調査研究の最前線 —20世紀初頭の雲南省でのフランス人宣教師の記録—

「能海寛のチベット探検とフランス人宣教師の記録」、『石峰』第26号（2021.3）



能海寛肖像



『能海寛遺稿』表紙